

テクニカルダイアリー



今年の8月に千葉県内で初めて「スイカ退緑えそ病」(写真③)の発生が確認されました。初期症状としては、不鮮明な退緑斑紋が生じ、それが徐々に増加し黄化葉となります。症状が進展すると葉脈部分を残して葉の全面が黄化します。加えて葉の周縁や葉脈間からえそが生じ、最終的には葉が枯死します。さらに果実の肥大不足、糖度不足等も引き起こす

スイカ退緑えそ病について

今回はスイカの収量を減少させないために、今年初めて県内で発生が確認された病害とその対策についてご紹介します。



写真④ スイカ退緑えそ病(拡大)
(写真提供: 山武農業事務所)



写真③ スイカ退緑えそ病
(写真提供: 山武農業事務所)

コナジラミ対策

コナジラミ防除においては、定植前後の初期段階からしっかりと

ため、収量減少も懸念されます。この病害は、近年トマト等で猛威を振るっているタバココナジラミ(写真⑤)がウリ類退緑黄化ウイルス(CYV)を媒介することで伝染します。ウリ科の他にもナス科やアカザ科など、広範な植物に感染しますので、スイカも含めて周年でコナジラミ対策が必要になります。



写真⑤ タバココナジラミ
(ルーラル電子図書館より引用)

③ 感染源の除去
前述した①と②の対策をしても完全に防げるとは限りません。初期に発病した株については速やかに抜き取り、本圃周辺から隔離しましょう。

② 健全な苗を育成
苗から本圃へのコナジラミの持ち込みを防ぎましょう。育苗ハウスには害虫が入らないよう開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを展開し、育苗ハウスや本圃周辺の雑草は除去しましょう。また育苗期〜定植当日に使用可能な薬剤(表②参照)による防除を行います。

① コナジラミをつながない
前作終了後は残渣や雑草等を除去し、ハウスの蒸しこみを行いましょう。高温と乾燥により殺虫効果が高まります。

表② 育苗期〜定植当日に使用可能な薬剤

| 薬剤名 | 系統 (IRACコード※) | 使用量 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 |
|----------|----------------|-----------|--------------|------------|------|
| ベストガード粒剤 | ネオニコチノイド系 (4A) | 1g/株 | 株元処理 | 育苗期 | 1回 |
| | | 1~2g/株 | 植穴処理 土壌混和 | 定植時 | |
| ベリマークSC | ジアミド系 (28) | 25mL/400株 | 灌注 | 育苗期後半〜定植当日 | 1回 |

※IRACコードとは、害虫に対する農薬の効き方が同じものをグループ分けして記号で表したものです。

以上の初期防除に生育期の防除を合わせた総合的防除に取り組むことで、作物を病害から守りましょう。

令和6年産の振り返り

1月下旬から2月播種の圃場では低温等の影響による発芽不良の発生や、2月下旬から3月末にかけての天候不順による生育の遅れ、強風の影響による露地トネルの剥落など、天候による被害を多く受けた年となりました。その結果、シーズンを通して小ぶり傾向となり、出荷量が前年と比較して2L級で約55%、L級で約26%減少しました。4月以降は気温が上昇し、生育の遅れを取り戻したものの、収穫期となる5月頃からは度重なる降雨に見舞われ、しみ症の発生が散見されました(写真①)。その結果、AM品やB品など、下等級の出荷量が前年と比較して約70%増加しました。

一方、前段産地である徳島県産の切り上がりが早まった影響で、千葉県産のニンジンは非常に高単価での販売環境が続き、前年対比138%の単価となりました。

収穫適期を逃してしまうと、しみ症の発生や病害根、裂根の

品種比較試験の目的

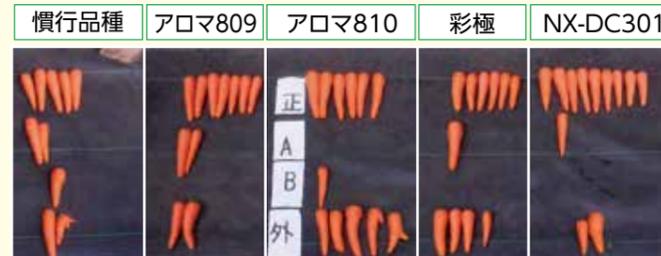
慣行品種と比較してしみ症に強く、形状や揃いが良い品種の選定を目的とし、アロマ809、アロマ810、彩極、NX-DC301の4品種で試作を行いました。

試験結果

発芽率は4品種とも慣行品種(90%)を上回る結果となりました(表①参照)。しみ症の発生率は慣行品種が20%であるのに対し、アロマ810とNX-DC301は17%とやや少ない数値となりました。さらに、地上部の葉長は慣行品種と比べて、彩極とNX-DC301がコンパクトで、収穫作業に適した草勢であるのに対し、アロマ810はやや繁茂



写真① しみ症が発生したニンジン



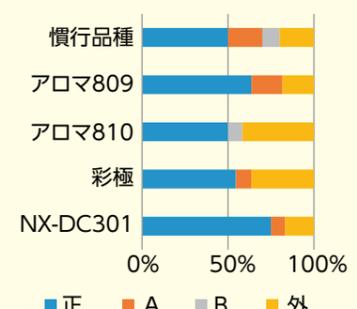
写真② 試作品種の比較写真

している傾向がありました。なお、正品割合に関しても、4品種とも慣行品種(50%)と同程度以上で、NX-DC301では75%と最も高くなりました(写真②、図①参照)。

表① 品種比較試験結果

| | 葉長 (cm) | 根長 (cm) | 根重 (g) | 発芽率 | 障害発生率 | | |
|----------|---------|---------|--------|------|-------|-----|------|
| | | | | | しみ症 | 岐根 | 形状不良 |
| 慣行品種 | 58 | 15.6 | 115 | 90% | 20% | 10% | 20% |
| アロマ809 | 55 | 15.8 | 124 | 99% | 27% | 0% | 9% |
| アロマ810 | 59 | 16.2 | 134 | 100% | 17% | 42% | 0% |
| 彩極 | 50 | 14.2 | 116 | 99% | 36% | 0% | 9% |
| NX-DC301 | 47 | 14.8 | 116 | 100% | 17% | 8% | 0% |

図① 規格別発生比率



ぜひ、今回の試験結果を次年度の作付けの参考にしてください。その他、ご不明な点等ございましたら、お近くの営農経済センターまでお気軽にお問い合わせください。